

第 50 回技能五輪全国大会諏訪地区会場情報発信プロジェクト

取り組みに至る背景・事業の目的

- 第 50 回技能五輪全国大会が長野県で開催されることとなり、諏訪地区会場では地域の特徴である精密機械加工の集積地として機械系職種の競技が中心に行われた。
- 技能五輪が当地で開催されることは、地元出場選手の技能・技術力向上につながることはもとより、次世代を担う小中学生が、出場選手の真剣に競技に取り組む姿勢を目の当たりにして、ものづくりの素晴らしさや重要性、次第に形になっていくおもしろさを実感し、将来自らも技能五輪にチャレンジする人材の輩出に繋がれば、長野県及び諏訪地域の産業の発展に寄与することが期待される。

事業内容

- 小中学生への情報発信事業
競技について説明する岡谷工業高校生たちは、はじめに旋盤や機械組み立ての専門家から作業現場で実地指導を受け、その後、個人そしてチームで事前学習をして説明コンテンツを作り込み、小中学生の見学時に競技内容や加工の難しさ、審査のポイントについて iPad を駆使して分かりやすく説明した。
(見学者数 小学生：7校 674人 中学生：4校 1,463人)
- 諏訪地区情報発信事業
大会当日の競技現場の状況をワンセグ放送及びユーストリーム配信することにより交通情報やイベント情報、競技の雰囲気やイベント情報を伝える、大会期間中に会場へ直接足を運んでいただくきっかけ作りを行った。



【iPad を使い小中学生に競技説明】

事業効果

- 機械系の職種は一般の人が初めて見た場合、何をやっているか分からないとの声が上がっていたが、今回の取り組みにより競技に対する理解の一助になった。
- 会場を訪れた小中学生は、技能五輪の競技についての理解を深めるとともに、ものづくりのすばらしさやおもしろさを実感できた様子であったことから、諏訪地域の主力産業であるものづくり産業を担う人材の裾野拡大につながることを期待される。
- 来場者に対して、混雑する会場周辺の交通情報や併設イベント情報、会場の臨場感を伝えるライブ映像の情報をワンセグ放送及びユーストリーム配信を通じて発信することは、携帯やスマートフォンの利用が進んだ現代において有効な試みであった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

- 説明する競技職種を、どのようにしたら小中学生に分かりやすく理解してもらえるかについて、高校生同士で何度もシミュレーションしながら工夫を重ねていた。
- 来場した小中学生が真剣に説明を聴きメモを取る姿を見て、説明した高校生自身が、次第に説明する声も姿も堂々としたものになっていったのが大変印象に残った。この機会を通じて、仕事に対する将来像を具体的に描くなど何かを掴んだようであった。
- 本市では、小学生から「地域密着型ものづくり講座」を開き、10年以上に渡りものづくり力を高める教育を継続しているが、長野県及び諏訪地域の産業発展を支える人材の育成に本事業が少しでも寄与できたものと考えている。
- 岡谷工業高校生、先生方、作業現場を提供して頂いた企業、NPO諏訪圏ものづくり推進機構及びITシステム事業者の多大な理解と協力があって、はじめてこのプロジェクトを遂行することができた。ご協力頂いた皆さまにこの場を借りて厚く御礼申し上げます。
- 平成 25 年 9 月に「諏訪圏ものづくり人材育成協議会」が設立された。今後、実践的な研修の場を通じて諏訪地域のものづくり人材育成を持続的に行う仕組みを構築し、ものづくり企業の国際競争力を高める取り組みを行う。

【選定のポイント】

技能五輪全国大会を地域へPRするとともに、未来を担う小中学生に多数見学してもらうことができ、技能への更なる意識向上が期待される。

団体名	長野技能五輪 2012 諏訪地区委員会（諏訪市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	諏訪市経済部商工課工業係 0266-52-4141（内線 433）	事業費	1,372,878円
		支援金額	1,372,000円